

ふれあいサロン花園

開会日：平成23年10月15日

場 所：登別本町2丁目（旧相原商店）

開催日：月・火・木・金・日曜日（週5回）

休 み：水・金曜日、ゴールデンウィーク、お盆、年末年始

会 費：無料（社協・町内会・野菜の売り上げ）

立ち上がりのきっかけ

町内で雑貨店を営んでいた店主から「店を閉めて、女房の7回忌も終わり、一人で家にいて話し相手もなく寂しいので、みんなが集まれる場所を作りたい」と相談された。

社協・町内会にお手伝いを頂きながらサロンの開催の運びとなりました。

内 容

- ・ **軽やか体操毎週金曜日** 手足の運動・頭の体操・情報
包括支援センセンター(2ヶ月1回) 軽やか体操・健康についての話
- ・ **食事会**
春：竹の子ご飯 夏：冷やし中華 秋：栗ご飯・きのこご飯
冬至：かぼちゃの汁粉 クリスマス会：ちらし寿司・ケーキ
路灯り：お汁粉・甘酒 鏡開き：お汁粉
- ・ **ビデオフォーラム**（鳥浜トメの一生・ヘレンケラと中村久子…）
- ・ **移動販売** 毎月第1金曜日 手をつなぐ会（パン・椎茸・珍味など）
- ・ **野菜販売** トウモロコシ・長芋・玉ねぎ・じゃがいもなど格安で提供
- ・ **地域子ども塾** 夏休み・冬休み学習会（83歳のご婦人も参加）

特 徴

- ・ 年令・性別・地域の制限はありません。『どなたでも』
- ・ 月1回サロン日より発行（町内回覧）

問題点

- ・ 来てほしい人が来ない（高齢・あまり外出しない・訪問者が少ない…）
- ・ 男性の参加者が少ない

これからの展開

サロンの送迎・日帰りバス旅行



食事会(栗ご飯)



88歳男性が
ペットボトルで
かざぐるまの作り



手をつなぐ会
移動販売

茶話会



地域子ども塾



事 例

1. 30才のご夫婦と5ヶ月の男の子が横浜から移転、知り合いがいなくサロンにぶらりと立ち寄った事から『町会のお節介おばさん達の得意の色々な話・おすそわけ・おさがり・草刈りまで』お陰で、短期間に町会の一人、男の子はアイドルになりました。

2. 認知症のお母さん(90才代)、いつも息子さん(70才)と手をつなぎサロンに来ます。美味しそうにお茶とお菓子を食べます。学習会にもお母さんを連れてきます。子ども達も違和感がないようです。その方が行方不明になった時(2回)みんなで探しました。

3. 公園が側にあるので、子ども達の居場所としても利用されています。

『水・トイレ・寒い・怪我をした、喧嘩している』などとサロンにきます。

4. 83才男性、2年前元気がなくなり「生きていても何にも楽しいことがない」などと、暗いことをばかり口にするようになりました。娘さんが訪ねてきても楽しかった話はしません。

夜・休日に電話が来るようになり、その度訪問しました。救急車も2度お願いしましたが、悪い所がなく返されます。もしかしたら『老人性うつ病になりつつあるのではないか』と心配していました。

そんな事が続いたある日、夕方遅く帰宅し、なんとなく気になり電話しました。出ません。『お風呂でも入っているかしら』と思いながら訪問、灯りがついていません。鍵を預かっていたので、近くの民生委員と家の中に、低血糖で朝から倒れていたようです。(糖尿病で朝インシュリンの注射をしています)

医者からは明日の朝までだと危なかったと言われました。でも、本人からは、「そのままにしてくれたら楽になった」と言われてショックでした。

後日「あの時は、毎日どうしたら死ねるか、首を吊ろうかとまで考えた」と聞いて、またまたショックでした。

今は、とても元気で前向きに暮らしています。

※ 民生委員としてサロンは、情報をキャチし支援活動に、また関係機関へ繋ぐこともできます。

サロンに行けばだれかいて、話を聞いてもらえる。あたたかいサロン。そんな居場所になれたら嬉しいですね。